



▲平成29年2月19日 卒寮生壮行会の前に撮影

3月は旅立ちの季節。今年は精鋭6人が卒寮を迎えた。不安や希望など、ない交ぜの表情で入室してきた当時を振り返ると、歳月は寮生をそれぞれに作り上げるものだ。自信と落ち着きを醸し出す。毎年卒寮していく学生たちを見送る度に、いつも同じ感慨を抱く。長い人生、実社会で頑張してほしい。

2月19日には壮行会を開き卒寮生を激励した。卒寮生からは後輩に「いろいろな経験をして、壁に当たっても無駄にはならない」「自分とは違う考えを持った人と交流し、視野を広げてほしい」などのアドバイスを送った。



## 寮経験を社会に生かす

### 29年3月 決意込めて6人が卒寮

#### 卒寮生の言葉

卒寮生氏名(大学・学部、出身地)

進路

- 1 将来の抱負
- 2 後輩への助言

**曾我部 貴良**(東京海洋大学・海洋工学部、松山市)

一般社団法人日本海事検定協会

- 1 私は今年から日本海事検定協会の検査員として、船舶に積み込まれる荷物の検査を行う仕事に就きます。そのため、公正で信頼される検査を行う検査員になりたいと思います。後輩への助言として私が述べたいことは「様々な人と交流を持つ」ということです。自分とは違う考えを持った人と交流を深めることで視野を広げてほしいと思います。

**上田 祥一朗**(明治大学・商学部、宇和島市)

コムテック株式会社

- 1 四月から社会人として歩んでいく上で、私は「やるからには全力」ということを胸に掲げ、自覚と責任ある大人になり、誰に見られても恥ずかしくない人間になります。四年間という大学生活の中で楽しいこともあれば、大きな壁にぶつかる時もあるでしょう。色々な経験をして、色々な考え方をしてください。それら全て無駄なことはないから。

**近藤 誠志郎**(青山学院大学・法学部、大阪府大阪市)

児童養護施設 円福寺愛育園

- 1 四月から教育に携わる職に就くことになりました。施設で暮らす子ども達を本気で愛し、全力でぶつかって、他人の壁を越えることのできる教育者になりたいと思っています。人生のレールから脱線しかけていた自分を支えてくれたのは明倫館の仲間達でした。明倫

館で人間関係を大切にすると、最高の大学生活を送ることができ、一生の友ができることでしょう。

**加洲 陽太**(青山学院大学・法学部、愛南町)

未定

- 1 来年度はもう一度公務員試験に挑戦して希望する職場への合格を目指します。大学時代は一人で悩むことが多かったので今後はもっと積極的に行動します。大学生の間に、行ったことのない場所に行き出会ったことのない業界の人に能動的に出会ってください。好奇心で自分の知識や考えの幅を広げてください。

**赤松 浩介**(国士舘大学・21世紀アジア学部、宇和島市)

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社

- 1 四年間本当にお世話になりました。東海東京フィナンシャル・ホールディングスに入社し運用の部門に行けるように、これから勉強中心ですが、頑張ります。大学四年間明倫館での生活は非常に恵まれており将来の自分自身にとっても役立つと思います。ぜひ、四年間ですばらしい友人・思い出を作ってください。

**宮下 樹**(上智大学・経済学部、愛南町)

未定

- 1 教員採用試験を受験しましたが、不合格でした。将来的には愛媛に帰りたいと思っていますが、まずは「何をしたいか」「何のためにか」を考え、次の試験に向けて頑張ります。もっと勉強すれば良かったとは思いませんが、もっといろいろな場所へ行けば良かったとは思いません。明倫館も楽しいですが、たまには外に出て寺とか古墳とか見に行きましよう。

## 南豫明倫館チームが準優勝

### 1位に惜敗、わずか3秒差

#### 小金井・第13回野川駅伝大会

小金井市の第十三回野川駅伝大会が平成二十九年一月十五日あり、南豫明倫館チームが一般の部(高校生以上)で準優勝を飾った。最終走者が1位にわか3秒差に迫ったが、惜しくも及ばなかった。

一般の部は6区間全18キ(1区間3キ)で、28チームが出場し健脚を競った。

明倫館は1区近藤誠志郎(青山学院大4年)、2区栗山一輝(東京大1年)、3区中川智也(東京大1年)、4区久保多賀盛(國學院大3年)、5区千種健大(早稲田大3年)、6区加洲陽太(青山学院大4年)の6人が参加。合計1時間6分57秒の好タイムで2位に入った。2位でタスキを引き継いだアンカーの加洲が猛追し、ゴール前でトップに14秒余りに迫る力走を見せた。

明倫館勢の区間総合順位は、1位が栗山で9分39秒と、2位他チーム走者に46秒の大差をつけて断然トップ。3位近藤10分25秒、4位加洲10分31秒の好成績だった。



▲野川駅伝大会で準優勝した南豫明倫館チーム。(左から)近藤、千種、栗山、久保、中川、加洲の各選手

初出場した二十五年の第九回大会では3位と健闘。会場には明倫館の寮生十五人が応援に駆け付け、選手の活躍をたえ「来年の大会は一層期待できる。必ず雪辱を果たそう」と誓い合った。

# ドイツへの「巣立ち」 民事裁判手続きを研究

早稲田大学大学院生  
宇都宮遼平君 留学記

平成二十八年八月某日、私は南豫明倫館を退寮致しました。とは言え、卒業式を済ませたのは約三年前。大学卒業後、アカデミックな世界に身を投じた私は、戸梶學館長をはじめとする公益財団法人南豫奨学会の皆様方のご厚意により、特別に在寮させていただきます。歴代最高記録の八年には及びませんが、これまでの南豫明倫館の歴史の中で最長クラスの在寮期間であるかと思えます。



▲ユネスコ世界文化遺産指定都市であるレーゲンスブルクの旧市街地

▲レーゲンスブルクの旧市街を流れるドナウ川

## ドナウ川に面した地

明治大学法学部を卒業後、民事訴訟法学の研究者を志した私は、早稲田大学大学院法学研究科へと進学致しました。現在は博士後期課程に在籍するとともに、日本学術振興会特別研究員として、民事裁判手続きの研究を行っております。そしてこの度、ドイツ・バイエルン州のレーゲンスブルク大学へ、客員研究員として約一年間留学をさせていただくことになり、八月に退寮をさせていただきました。

レーゲンスブルクはヨハン・シュトラウス2世の「美しく青きドナウ」で有名なドナウ川に面した、非常に風光明媚な街です。また、中世の面影を残す旧市街はユネスコの世界遺産に登録されており、私が現在住まわせていただいております大学のゲストハウスはこの旧市街のほぼ中心部に位置しております。このような素晴らしい環境で研究活動をさせていただけるのは大変ありがたいことだと思えます。

## 独語の授業に苦勞

現在私は受け入れ先教授の開講されている法学の授業を週四コマと、留学生向けの語学の授業を週二コマ受講させていただいております。法学の授業では教授が学生に対し発言を求めたり、学生が教授に質問したりと、学生が授業へ積極的に参加しているという印象を受けました。しかし、教授や学生の会話のスピードはとても速いため、渡航前にゲーテ・インスティトゥートのレベルA（初級）を全て終えたばかりという私にはそこから直接内容を理解するのはとても難しく、着いて行くことすら困難な状況が続いております。他方、語学の授業にはドイツ語を母国語としない世界各国からの留学生が出席しておりますが、いずれの留学生も教養レベルが高く、語学のレベル

が同じでもそこから表現される内容に決定的な差異があるように感じます。また、留学生同士では英語で話す機会もあるのですが、いずれの留学生も英語のレベルが非常に高く、元々英語が苦手なうえにドイツ語の習得で英語を忘れてきている私はそこでも苦勞しております。逆に言えば、外国における英語の汎用性はとても高いので、日本人にとっても最早英語は必須のものであるのかもしれませんが。

## 週2回剣道を指導

またプライベートにおいては、レーゲンスブルクの剣道クラブの稽古に週二回参加させていただいております。当初はただ稽古に参加させていただくだけのつもりでしたが、クラブのメンバーから「有段者がいないから是非指導してほしい」ということで依頼を受け、現在は「ドイツ語で指導をしております。なかなかうまく説明することができず大変ですが、クラブのメンバーはとても熱心に私の下手なドイツ語に耳を傾け、理解してくださるので、なんとかうまく稽古を成立させることができていると思います。

このように、様々なカルチャーショックを受けながら何かと苦勞の多い留学生生活を送っておりますが、周囲の方々がとても友好的なので、忙しいながらも毎日楽しく過ごしております。これからまだまだ留学生生活は続きますが、この留学生生活で少しでも成長できるよう頑張りたいと思います。

最後に、約七年半の間、ご厚意により在寮をさせていただき、お世話になりました戸梶館長をはじめ公益財団法人南豫奨学会の皆様方、そして、私に楽しい寮生活を提供してくれた寮生の皆様に感謝申し上げます。筆を置かせていただきたいと存じます。誠にありがとうございました。

Durch Leiden Freude!  
(苦しみを突き抜けて歓喜に至れ！)

## 公益財団法人 南豫奨学会 「奨学金支援会」だより

# ご寄付いただいたお礼とご報告

公益財団法人南豫奨学会・奨学金支援会

理事長・会長 伊達 宗信

平素は皆様方には公益財団法人南豫奨学会と南豫明倫館の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、南豫奨学会の平成二十八年度の「奨学金支援会」には、二十九年三月三十一日現在、九十四名（一市四法人を含む）の方々から二百三十四万六千三百十円の支援金をお寄せいただきました。皆様方のご厚意に感謝申し上げます。本年度該当者はいませんが、すべて向学心にあふれる寮生の奨学金として貸与させていただきます。

南豫奨学会の奨学金貸与は、本年度までに三十二人、総額五千六百八十万円の実績を挙げました。しかし、奨学金貸与の基金としてはさらに充実させなければならぬ使命と考えております。つきましては、何かと出費の多い折から、まことに恐縮至極に存じますが、本趣旨をご高察のうえ、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

奨学金与金の基金となる年会費として、一口（普通会員一万円、特別会員＝南豫奨学会評議員・理事二万～三万円、法人会員五万円）以上のご支援を賜れば幸甚に存じます。未来を担う人材の育成すなわち教育こそ郷土発展の基礎だと確信しています。

郵便振込口座番号 〇二五〇一一一九六五三三  
名義 「南豫奨学会奨学金支援会」

## 平成28年度支援会 募金状況

(平成29年3月31日現在)

	募金数	金額(円)
一般	2人	19,790
現・元保護者	22人	272,720
法人	4社	219,190
市	1市	50,000
O B	27人	307,040
評議員・審議員	24人	1,019,760
理事・監事・元役員	14人	457,810
合計	94(人・社・市)	2,346,310

※ 選定委員は評議員・審議員に含みます。東京都の指導で郵便振込料を差し引きました。

## 編集後記

南豫明倫館の寮生が、今年も社会人として新生活をスタートしました。保護者の皆様は「心配かもしれませんが」「案ずるより産むが易し」です。みんな「寮生活は役立ちました。楽しかった」と言い残してくれました。寮生OB宇都宮遼平君の留学記『ドイツへの「巣立ち」』はいかがでしたか。美しいドナウ川のほとりの古都で、学究生活を過ごしています。

寮生の海外留学は長短期を含め、この五年間で五人以上を数えます。今も一人米国に行っています。われわれの学生時代とは大きく様変わりしました。うらやましい限りです。

(戸梶)